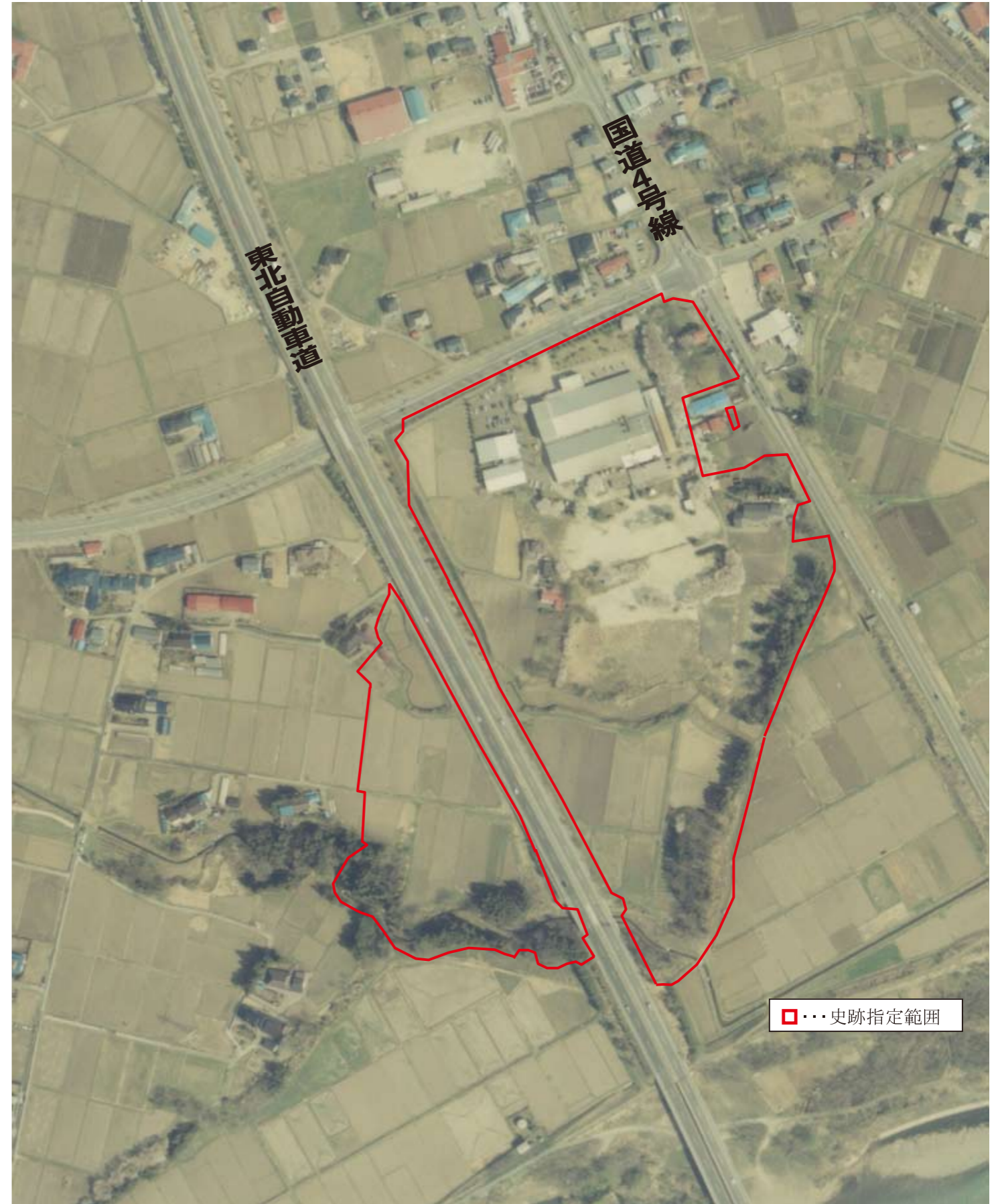




鳥海柵跡国史跡指定範囲



※ 文化庁資料一部抜粋

史跡の新指定

1 名称

とのみのさくあと
鳥海柵跡

2 所有者

金ヶ崎町 ほか 74 名

3 文化財の概要

①文化財の概要

11世紀に陸奥国の奥六郡を支配した豪族安倍氏の拠点。その血脈は、奥州藤原氏の初代藤原清衡につながる。律令国家による支配から自立し、平泉で結実する奥州平泉文化の起源や展開を知る上で重要な遺跡。

②文化財の価値

平安時代に書かれた『陸奥話記』に見える鳥海柵跡。南北約500m、東西約300mの範囲に及ぶ柵跡は、東から挟入する3条の開析谷によって4つの区画に分割された台地上に立地し、段丘崖と開析谷とを巧みに利用し防御機能を高めながら、諸施設を配置している。11世紀前半から中頃にかけて造られた複数の堅穴建物や掘立柱建物、柱列の中には、周辺の同時期の遺跡では見られない櫓台と考えられる建物や四面廂付建物、政治・儀式に関わる中心的な建物と推定される土壁で床張りの可能性のある四面廂付建物などが検出されている。また、二つの開析谷を結ぶ長さは145m、幅8.8m、深さ最大3.2mの濠跡や、台地東端と谷とをL字に結ぶ濠跡など柵内の施設を区画、防御する施設も検出されるなど、時期や遺跡の内容は奥六郡を支配した安倍氏の中心的な柵にふさわしい。安倍氏の勃興期から全盛期にかけての状況をよく伝えているのみならず、11世紀における地方の様相を解明する上でも重要な遺跡であるとともに、律令国家による支配から自立し、平泉で結実する奥州平泉文化の起源や、大鳥井山遺跡や柳之御所遺跡などとともに東北における居館の展開を知る上で重要である。

116426.58㎡(約12ha)

航空写真 (平成13年撮影)